

1 単 元 身近な環境問題を調査する計画を立てよう

ESD：責任性

人権：主体的な態度の確立

2 本時の目標

- (1) 自分の調べたいテーマについて、ねらいをもって、計画を練り合うことができる。
 (2) 身近なゴミ問題に興味をもって、仲間と話し合うことができる。

3 本時を指導するにあたって

児童は、前時までにアホウドリの雛がゴミを飲み込んで死んでしまうという事実を知り、ゴミが生き物に対して大きな影響を与えていることを学習した。また、身近なところでも様々なゴミ問題、さらに他にも様々な環境問題があることに気付き始めている。本時では、身近なゴミ問題を調べる事を想定し計画を立てさせることで、夏休みに行う環境問題の調査に向けて、各自ねらいをもって取り組むことができるようにさせたいと考えている。そして、調査を通して、児童一人ひとり地域の環境を守る主役であることに気付いてくれることを願っている。

4 準備・資料

教師：フラッシュカード、付箋、実物投影機、十字チャート、調査シート（ステップチャート）

児童：ワークシート

5 指導過程

段階 時間	学習活動	・留意点 [支 援] 評 価
つかむ 3分	1 これまでの学習をふり返る。	- ゴミをきちんと処理しないと、生き物に影響を与えてしまうことをふり返らせる。 - 調べるテーマとテーマを選んだ理由を確認させる。
	身近なところにあるゴミ問題について調べよう	
考える 20分	2 調査の仕方を話し合う。 (1) 意見を出し合う。 (2) 付箋に調査の仕方を書き出す。	- どのような調査内容があるのか発表させる。 - 調査の仕方がより具体的になるように、方法や場所の観点でどのような考え方があるのか話し合わせる。 - 調査が必要なことを付箋に書かせ、その後、班で十字チャートに方法別に分けて整理させる。 [支] 「何を」「どこで」「どのように」調べるのかを具体的に書くことができるように、付箋の書き方の見本を示す。 - 班の仲間のよい意見に、丸印をつけさせる。 身近なゴミ問題に興味をもって、調べようとしている。 (チャート・発言)
高め合う 22分	3 班ごとに中間報告をする。 (1) 班ごとに発表する。 (2) 他班の発表内容を元にさらに付箋を加える。	- 実物投影機を用いて、班ごとに整理したチャートを全体に見せる。 - チャートを黒板に貼り、自分達の班が、他班に比べて付箋が少ない部分を視覚的に読み取らせる。 - 他班の考えで取り入れてみたいと思うものを発表させる。 - 人の思いについて書かれている付箋を取り上げ、教師の話と共に紹介する。 - 付箋の色を変えて、新しく増えた意見をわかりやすくさせる。 - 付箋を貼らせた後、どのような意見が加わったのか再び発表させる。 [支] 悩んでいる班には、付箋が少ない場所を確認させ、報告の意見と関連させながら助言する。
まとめる 15分	4 調査シートに調査の仕方をまとめる。 5 自分の調査内容を発表する。	- 調査シート（ステップチャート）を児童に配付する。 [支] 調査内容を迷っている児童には、一番興味があるものを選ぶように声かけする。 - 調査することで、どのように結果が出るのか予想を書かせる。 - 調査内容を全体場で発表させ、今後の調査に向け意欲をもたせる。 [支] 話型を用いて、どの児童でも発表しやすいようにする。 ねらいや計画性をもって、問題に取り組もうとしている。 (チャート・発表) - 夏休みの調査の実施について児童に伝える。